

2016年2月18日開催

会場／プラサヴェルデ

# 『東 部 地 区 分 科 会』

## サンフロント21懇話会 第21回 東 部 地 区 分 科 会

静岡新聞



「サンフロント21懇話会」(代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長)は2月18日、第21回東部地区分科会を沼津市のプラサヴェルデで開いた。官民の会員や動物愛護ボランティアなど約140人が参加し、講演とパネル討論を通じて人と動物が共生できる社会の実現に向けて取り組むべき道を探った。

主催者を代表して北村敏廣静岡新聞社専務は「人と動物の共生をテーマとする分科会は3回目。世界中から多くの人々が訪れる2020年東京五輪・パラリンピックに向け、伊豆東部地域がペットの福祉と愛護の世界基準を目指す意義は大きい。地域創生、活性化支援につなげたい」とあいさつした。伊東哲夫運営委員長は、沼津市の市有地で公益財団法人が運営する予定だった「人と動物の未来センター」(仮称)が撤退した経緯を説明したうえで、「動物との共

生社会実現への思いに揺るぎはない。さらに推し進めていく」と決意を示した。

基調講演の講師は英国生まれで、日本で動物保護の活動に尽力するNPO法人「アニマルレフュージ関西」(ARK)理事長のエリザベス・オリバー氏。動物の保護活動について欧州などと比較しながら日本の実情や課題を語り、「動物を保護するシェルターを作る場合、スペースや人員などのバランスが重要。営利を目的としないが運営には費用が掛かることを踏まえて取り組んでほしい」とアドバイスした。

パネル討論はオリバー氏、動物愛護の先進国ドイツに滞在経験がある伊豆市長の菊地豊氏、NPO法人県補助犬支援センター理事長の川口綾氏が登壇し、それぞれの体験や取り組みを踏まえて意見を交換した。

## 主催者代表あいさつ



静岡新聞社代表取締役専務

北村敏廣

お忙しい中、サンフロント21懇話会東部地区分科会にご来場いただき、誠にありがとうございます。日頃より当懇話会の活動に多大なるご協力とご支援を賜りまして改めて感謝申し上げます。

本日のテーマは「人と動物が共生できる社会の実現を目指して」です。2011年から動物の愛護と福祉の啓発活動に取り組み始め、人と動物の共生をテーマとする分科会は今回で3回目となります。

犬猫の殺処分ゼロ実現に欠かせないのは行き場のなくなったペットを保護し、健康チェックや教育などを行い、新たな飼い主を見つける動物シェルターの設置、建設です。基調講演の講師、エリザベス・オリバーさんは大阪府能勢町にありますがNPO法人アニマルレフュージ関西、通称ARKの創始者であり、現在も代表として動物愛護、福祉の最前線で活躍しておられます。ARKは日本有数の動物シェルターでもあります。豊かな経験・知識に基づく説得力のあるお話を聞かせていただけるものと期待しております。

## 懇話会代表あいさつ

本日は会員の皆様はもとより動物愛護のボランティア、動物の愛護や福祉に造詣の深い方々にもご出席いただいております。本当にありがとうございます。

皆様にお伝えしたいことがあります。1つは沼津市が土地を提供し、公益財団法人が運営主体となって「人と動物の未来センター」を設立する計画の推進に努めてまいりましたが、地元理解が得られず、結果的に運営母体が撤退を決めるという事態になりました。運営委員会の力及ばず申し訳なく思っています。

とはいいながら人と動物が共生する社会の実現という懇話会の提言は揺るぎないものです。会員の一部の方々が動物シェルターの創設等を目指してNPO法人を設立し、運動を展開していこうという機運が生まれていますので、支援してまいりたいと考えています。2020年東京五輪・パラリンピックでは自転車競技が伊豆市で開催されることもあり、世界各国の方々がこの地域を訪れるでしょう。動物愛護と積極的に取り組んでいる地域であることを発信するいい機会です。活動の手を緩めることなく取り組んでまいります。



伊東法律事務所所長

伊東哲夫

## 基調講演

# 「なぜ日本に アニマルシェルターが 必要なのか」

講師：NPO法人アニマルレフュージ関西(ARK)理事長

エリザベス・オリバー 氏



欧米に比べ遅れている日本、  
動物に5つの自由を

ARK（アーク）はアニマルとレフュージ（避難所）、関西の頭文字です。開設は1990年で、99年にNPOになりました。25年続いています。

欧米など世界の動物福祉の法律のベースにあるのはファイブ・フリーダム、5つの自由です。今、EUには26カ国が加盟していますが、いずれの国もこれを基本に置いています。

- ① 飢えや栄養不足がないこと
- ② 不安とストレスがないこと
- ③ 正常な行動を自由に取れること
- ④ 不快感がないこと
- ⑤ 痛みやケガがないこと

これらは日本でも紹介されていますからご存知の方も多と思います。

でもちょっとこの写真を見てください。たぶん餌も水も与えているでしょうけれど、ほとんどつなぎっぱなしです。日本では普通かもしれませんが、欧州の人から見たら虐待になります。

私の国、英国の動物福祉の歴史は長く、最初の法律は1822年、200年近く前にできました。今や関連する法律は90以上に及び、動物の運搬方法などに及ぶなど本当に細かいところまで法律で定めています。

日本で最初の法律は1973年だったと思います。次の年にイギリスのエリザベス女王が来日することになったのですが、動物愛護に関する法律が日本にはないため困ってしまいました。なぜ必要になったかという、エリザベス女王は大の犬好きでしたから。しかし急ごしらえでしたからザル法でし

た。動物のための法律ではなく、人間のためのものでした。その法律は98年に改正され、元の形はあまり残っていませんが、日本の飼えなくなったペットは保健所経由で愛護センターに移され処分に戻るというケースがほとんどです。動物愛護に反するケースについて警察は告発しなければなりません、あまり熱心に取り組んでいるようには見えません。今でこそ愛護センターと言っていますが、かつては管理センターと呼ばれ、人間側の都合が丸見えでした。

これは四国のある県の愛護センターです。29億円をかけて作り、外観はディズニーランド風でかわいいです。でも中は氷のようです。暖房も冷房もなし、犬はもうすぐ死ぬのが分かっているから毛布もありません。だいたい1週間後にはガス室に送られ、火葬されてきました。市民から改善を求める声上がり、新しいアイデアとして採用したのがトラックに載せて火葬場まで運ぶ間にガスを注入する方法でした。処分場のイメージを緩和するためこの方法に追随した県もありました。今は殺処分の件数は大幅に減っています。10年ぐらい前は全国で1日3000匹以上（犬、猫）だったものが、今は500匹程度になっていると思います。

アークには様々なペット、  
シェルターがもっと必要

施設が古くなってきましたが大阪のアークには約25人のスタッフがいます。そして犬がだいたい160匹、猫が150～160匹います。東北のウサギもかなりいますし、ヤギやブタ、ニワトリが時々入ってきます。アヒルがいることもあります。

これらの動物はどこからアークに入ってくるのでしょうか。英国の場合はイングランド、スコットランド、北アイルランドなど全国どこにもシェルターがいっぱいあります。もし飼えなくなってもどこかが受け入れてくれます。捨てる必要はありません。

日本人がみんな無責任だといっているのではありません。そこには本当に家族の事情があります。例えば飼い主が入院しなければならない、老人施設に入る、亡くなるとか。ほかにも離婚や倒産、DVなどいろんな理由で入ってきます。この間の事情は英国も日本もだいたい一緒です。でも日本にはセイフティーネットがありません。日本では飼えなくなった場合は捨てるか、保健所しかないのです。特に大阪の場合は公園にホームレスの方がたくさんいて犬などを飼っています。アークは大阪城公園からもう40匹以上の犬を引き取っています。飼い主が警察に逮捕されて刑務所に入るようなケースでも引き取っています。

東京には10年ほど前から事務所を置いています。今スタッフが2人います。でもシェルターがありません。動物たちは一時預かりします。普通の家庭で預かってもらっています。30軒ほどあります。里親会が毎週のようにあって、ホストファミリーの方が預かっている犬や猫を連れて集まってきました。東京事務所の特色といえば、大使館関係の方が里親になってくださることです。今、アークの犬は世界中、ほとんどの国に行っています。大使館の方が本国に帰国するときに連れて帰ってくれていますから。

里親に出すときはかなり厳しい審査をします。引き取ってもらってもスペースがないと環境不適合ですから、事前調査書に書いてもらった上で面接をします。私たちはビジネスではありませんから、里親に出す犬たちのことを第一に考えて行動します。ずっと飼っていただけることを願うことです。

大阪のアークでは昨日、雪が降りました。スタッフは毎日、散歩や餌やりなどをしています。以前はスタッフ一人当たり犬猫合わせて26匹ぐらいを見ていましたが、今はだいたい16匹ぐらいです。ちょうどいい数だと思っています。時間的な余裕が生まれ、社会化というか適応力を身につけさせたり、スキンシップを図ったりといろいろなことができるようになりました。

ボランティアの方も30人ぐらいが来ています。

日本だけじゃなくて、この間はラオスやロシアの方が見えていました。アークはバイリンガルで、英語と日本語もあるから外国の方が来やすいのかもしれない。

## 2度の大震災を経験、避妊去勢済ませ里親に

アークは2度の大震災を経験しています。最初は阪神淡路大震災です。1年で600匹ぐらい保護しました。2011年の東日本大震災ではだいたい200匹の犬を保護しました。東北は大阪から距離があり、行き帰りが大変でした。現地からは車ではなく飛行機を使い、伊丹まで送りました。私も何回か行きましたが、なかなか大変でした。特にうろうろしている犬の確保には苦労しました。普通アークはブリーダーから直接保護することはしませんが、東北の時は施設の損壊が大きかったので、100匹ぐらいは引き取っています。

日本はブリーダーに対する指導やコントロールが不十分で、ペットショップは子犬、子猫のかわいさを前面に出して売っています。生後1カ月ぐらいの子犬や子猫はまさにかわいい盛りです。でもよく考えてみると、健康や精神、社会化などいろんな面で将来的な問題を抱えています。でも日本では犬や猫が欲しかったら必ずと言っていいほどペットショップに足を運びます。悲惨なのはその裏側にいる母親や父親です。ケージに入れられ、ブラッシングや爪切りはしてくれませんかから毛や爪は伸び放題、繁殖力が低下すれば捨てられる運命にあります。

英国にもペットショップはありますが、犬猫は売っていません。扱っているのはペットグッズとか餌です。

アークに入ってくる動物たちは虫下しやワクチンをして、健康チェックと血液検査、あとは避妊去勢を必ず行い、マイクロチップを入れています。子犬も子猫も2カ月で避妊去勢をします。里親に出すのはこれが済んでからです。アークが知っている獣医は2カ月で避妊去勢する技術を有する方が増えていますが、古いタイプの獣医は6カ月までできないという考えのようです。兵庫県篠山市に整備中の新しい施設では獣医の教育にも力を入れていこうと思っています。

この篠山は5年前に土地約2万3千平方メートルを購入し、今犬舎一つだけですが、今年もう一つ犬舎を作ります。英国のデザインを取り入れ、扉など

の部材も英国から輸入しています。床のタイルの下には暖房を巡らせていますし、日本は暑いですがエアコンも備えています。ここでは同窓会と銘打ってドッグランを開催しています。毎年2回開催していく予定です。里親に出した犬が60匹ほど遊びに来てくれますから、ここにいる30匹と合わせて90匹が参加します。広さは約2千平方メートル。喧嘩もないし、楽しそうに遊んでいます。

ボランティアは大阪でも篠山でも東京でも受け付けています。東京は里親会関連が中心になります。ボランティアに関心のある方はぜひ参加してください。また里親になってくださるようお願いします。

### 動物福祉が最も厳しいスイス、やり過ぎは虐待

スライドで海外のシェルターを紹介しておきます。ご存知かもしれませんが欧州で動物法や動物福祉法など動物に関する法律が最も厳しいのはスイスです。例えば部屋でカエルを飼うときは水の中、そして水温まで決まっています。おなじみの光景である牛は太陽を浴びる時間が法律で定められていますし、ほかの牛が見えるようにしなければならないという条文もあります。犬を飼うときには車の運転と一緒に免許が必要になります。スイスの牛は飼い主を知っていて寄ってきます。もうペットみたいでかわいいです。

英国では犬をやり過ぎにすると犬は引き取られ、飼い主は告発されます。なぜならやり過ぎは虐待だからです。英国で最大の犬の団体はドッグトラストで、全国で29カ所にシェルターを設置しています。歴史がありますから16世紀の納屋を活用した施設から近代的な施設までさまざまです。シェルターというとゲージが並んでいてなんとなく暗いイメージがありましたが、最近は明るいところが増えてきました。これによって犬を飼うため里親になろうと訪れる人も増えていると聞いています。ちなみに60%の方がシェルターに行き、30%が直接ブリーダーに行き、残る10%が知り合いの犬が子を産んだから一ととなっています。ただ英国のブリーダーはすごく誇りを持っていますから、すぐには売ってくれません。子犬が欲しかったら2、3年待たなければなりません。

ボランティアの数も多いです。一つのシェルターで300人ぐらいいるでしょう。以前は犬を飼っていたが、今は高齢になったのでというお年寄り

が多いようです。救急車もあります。植物や木を植えて犬と犬との緩衝帯も設けています。施設内の部屋はソファとかテレビ、絨毯などがあって普通の家と同じようにしてあります。ロンドンの南方にある英国最大の猫の保護施設は親と子猫、入ってきたばかりの猫、まだ病気を持っている猫、あとは里親を待っている猫というようにだいたい4つぐらいに区別しています。衛生面もきれいで整っています。

次はハンガリー。ハンガリーでは税金の1%、国の税金の1%を動物福祉に充てています。米国ユタ州のグランドキャニオン近くの施設は広大です。建物と建物の間を行き来するには車が必要です。獣医と看護師がいますが、日本と欧米では看護師の役割が違います。英国や米国の看護師は麻酔、点滴、注射などのほかに尻尾を取るなどの外部手術を行います。安楽死も看護師の仕事です。獣医は体内の手術を行い、あとの抜糸などは看護師がします。日本の看護師は免許もないので、ここまではできません。

ドイツには欧州で最も有名なティアハイムがあります。ここも広くて歩くと1時間ぐらいかかります。犬、猫、ウサギとニワトリ、鳥と4つの病院があり、入院を含め患者数がとても多いです。病院の中は太陽光を採り入れる天窓がたくさんあって、ゆったりしたスペースを確保しています。

ロンドン西方のバツ市にはアークからこれまでに8匹の犬を送り、そこで里親に出しています。飛行機代とか諸検査とかにお金がすごくかかりすぎ、準備も大変です。犬にとっては言葉や場所が変わり、担当者をはじめ人も変わってにおいも一とすべて変わります。8匹のうち7匹はだんだんと慣れて問題はありませんでした。1匹がカルチャーショックに陥りました。その時にバツ市に勤める方が里親になってくださいました。

### 行政は救出を積極的に、 外観と内部が異なる愛護センター

日本の現状に立ち返ってみましょう。先ほど取り上げた四国のある県と近畿のある愛護センターです。外観はきれいですけれど、中では押し込まれた犬が隠れるようにして震えています。子犬にはおもちゃも毛布もない。行政はもう処分されるのだから問題ないとしているようにしか見えません。近畿の愛護センターで私がこの犬を連れて帰

りたいと言ったら、ダメという返事でした。私の住所は大阪、この県の人ではありません。こんなテリトリーがあるなんて私には信じられません。

後は犬や猫を何十匹、いやそれ以上飼っているケースです。次々と集まってきていて匹数はつかめないし、屋内や屋外にあふれている。餌は与えているし、水もくれています、衛生的にも悪いし、ゴミだらけです。チェーンにつながれている犬もいます。でもこういうタイプの人には動物好きで、自分では正しいと思ってやっています。かわいそうなのは犬や猫です。少しの餌や水、時には小屋もあるけれど貧弱です。何より自由がありません。行政はこうした実情を見てもなかなか虐待だとは言いません。救出の手を差し伸べるようになってほしいと願っています。

### シェルターはお金がかかる、バランスが大事

これからシェルターを作る方、作りたいと考えている方にアドバイスを送ります。シェルターを作る前には、動物愛護の精神とともに全体のバラ

ンスを考えていただきたい。スペースの問題、世話をするスタッフやボランティアの確保、そして資金のこと。お金儲けは目的ではありませんけれど、お金がかかるのは確かです。シェルターを作るときにはかなりのお金が必要だということをしっかり認識して取り組んでいただきたいと思います。

### ＜講師プロフィール＞

■エリザベス・オリバー氏 英国生まれ。大学は農学部。酪農コース専攻。“好奇心”から1968年に来日。大阪府北部・能勢町の古民家を手し、英語教師をしながら馬、犬、猫などと暮らしていた。やがて不要物として捨てられるペットや家のない動物たちの惨状を知り1990年にARK（アーク）を設立した。「助けを必要とする動物を救出し、安住できる家庭に迎え入れる日まで、食事、住まい、医療などできる限りのケアを提供し、精一杯の愛情を注ぐ」は設立以来不変。阪神淡路大震災後、1年間で600匹を超える被災地から来た動物に対応した。1999年NPO団体となり、2008年英国王立動物会員として日本で初めて認定される。2012年には日本での長年の動物愛護への貢献を認められ、英国エリザベス女王より大英帝国五等勲章を叙勲。現在大阪のほか、兵庫・篠山で動物保護施設を運営。東京にも連絡事務所を置く、著書多数。近書に「日本の犬猫は幸せか 動物保護施設アークの25年」（集英社新書・2015年10月発行）がある。



## 「人と動物が共生できる社会の実現を目指して」



#### ＜パネリスト＞

菊地 豊氏(伊豆市長)  
川口 綾氏(静岡県補助犬支援センター理事長)  
エリザベス・オリバー 氏(アーク理事長)

#### ＜コーディネーター＞

大石 人士氏(一般財団法人 静岡経済研究所常務理事、サンクロン21懇話会TESS研究員)

◆大石 オリバーさんの講演をお聞きし、動物に



大石 人士氏

対して愛をもって接している方は意外と少ないのではないかと感じました。地域の人たちが動物という身近な存在にどういった気持ちで接してい

けばいいのか。このあたりが今日の議論のポイントになるかと思えます。

それでは2020年東京五輪・パラリンピックの自転車競技の会場「ベロドローム」がある伊豆市の菊地市長に、動物と行政がどんな形でつながってくるのか、そのあたりについて伺います。

### 自転車競技の伊豆市開催は絶好のチャンス 世界レベルのリゾート地・伊豆への第一歩

◆菊地 昭和33年戌年生まれです。昨年12月、県を通じて自転車競技2種目の伊豆市開催という話がありました。すごくいい話です。伊豆縦貫道が下田までつながる20年後を目標に伊豆半島をスペインやフランス、イタリアに負けない世界レベルのリゾート地にしたいと思っていますので4年後の東京五輪・パラリンピックは中間目標を置く絶好のチャンスです。たった4年ですから何をやるか、まず考えたのはユニバーサルデザインでした。競技会場への拠点となる沼津や三島、修善寺、そして伊東や熱海の各駅のハンディキャップのある方への対応はまだまだです。観光でも旅行会社などからターミナル駅に介護ヘルパーさんとかを配置できないかという要望も寄せられています。車いすを使っている方、盲導犬の利用者もいらっしゃいます。ペットは家族だから一緒に旅行したいという要望もあります。こうした多様なニーズに対してどのように都市をデザインしていくか、伊豆半島がどのように対応していくか、中間目標としてのハードルはかなり高いものがあります。

ちなみに東京五輪の自転車競技は4種目あり、伊豆市開催はこのうちトラック（室内）とMTB

（マウンテンバイク、野外）の2種目です。トラック競技の観覧席は現状の1800席から5000席近くに増やし、MTBは立ち見を含めて約2万人が訪れるという想定に対応していかなければなりません。しかも開催時期が夏の観光シーズンに伴う渋滞などと重なります。ガイド養成など来訪外国人対応もあって準備も大変です。

◆大石 川口さんにはまず静岡県補助犬支援センターの紹介をお願いします。

盲導犬を得て外出の機会が増え、人と出会える英国では補助犬は当たり前、日本は事情が違う

◆川口 私たちの補助犬支援センターは、補助犬の働きや補助犬法について皆さんに知っていただくとともに、補助犬を希望する方にこんな訓練所があるとか補助犬が来たらこんなに生活が変わるなどの情報提供をしています。そして現役のユーザーには皆さんに協力していただいている募金から治療費の補助をしたり、行動や健康についての指導をしたりしています。

補助犬とは盲導犬、介助犬、聴導犬の総称になります。設立は平成19年ですが、現在は同行援護従事者の研修、聴覚障害児の親のためのピアカウンセラー養成講座、相談支援事業なども手掛けています。障害のある人だけでなく、その家族、周りの方も含めて本当に生き生きと生活ができる、生きられる社会を目指して活動しています。

私自身のことを申し上げますと、25歳までは普通に見えていて仕事も持っていたし、趣味で伊豆の海に潜ったこともあります。交通事故で視力を一度に失いました。障害に対する知識はなく、目の見えない人の生活を知るところからのスタートでした。盲導犬との出会いも使用している先輩に教えられてからです。目の見えていたころは犬を飼ったこともなく、どちらかと言えば苦手でした。盲導犬を得ていろんな場所に行ける、好きな時間に時間を選ばずに行ける、そしていろんな方と出会えるということで本当によかったと思っています。

◆大石 オリバーさんの動物との出会いはいかがですか。なぜここまではまってしまったのですか。

◆オリバー 3歳半から馬に乗りました。馬は乗る前に手入れが必要です。鞍を掃除するとか、馬具を外してきれいにするとか、ブラッシングや馬

小屋の掃除もあります。これらを先にしないと馬には乗れない。私は3歳半の時から馬が大好きでしたので、母にポニーが欲しい、欲しいと毎日のように言いました。母は責任が必要だからと、ウサギやモルモットなどの小動物をきちんと飼うことを私にさせました。そして7歳の時、初めてポニーを飼いました。学校から帰ってきてお腹がすいていてもまずポニーに餌をあげました。お小遣いはほとんどポニーの餌になりました。

最初にそういうしつけとか責任を母から教えられましたので、今でも私は食べる前に犬に餌をやりませう。そんな習慣が身についています。英国では動物と一緒に過ごすことは家族、家族の一員として暮らすことを意味します。もう習慣ですね。

英国では盲導犬や介助犬は普通、当たり前ですが、日本はちょっと違います。どこへでも連れていくことはたぶんどできないと思います。犬と一緒に日本ではちょっと難しい。

◆大石 生活の中に動物が溶け込み、先に飼う責任を教え込まれるという英国の環境と日本の現状はまだ隔たりがあるような気がします。菊地市長は動物愛護の先進国・ドイツに何年か滞在されていますが。

### 犬のトレーニングが徹底していたドイツ 触らない、見つめない…4つの約束守って

◆菊地 2000年の初めごろでちょっと古くなりましたが、5年間勤務したうち3年間は大使館勤務でした。あのころ防衛駐在官は1人でしたか。本省からいろんな要求が来る中に、軍用犬の調査がありました。ドイツの国防省に行きまして教えを乞いましたら、陸軍が軍用犬を運用していました。いろいろな運用をしていましたが、犬好きという国民性もあってか犬と人の関係がすごく濃密で、部隊で勤務したら自宅に連れて帰り、その軍用犬と寝泊まりをして翌朝、部隊と一緒に戻るという生活です。軍用犬手当もありましたが、意思の疎通という点ではなるほどと思いました。

ドイツはペットでもきちんとトレーニングをしていて、トレーニングした犬でなければ飼うことができないのです。日本のように誰かが行くと吠えたり、逆にじゃれついて抱きついたりということは考えられません。見方によってはこれも人間

の都合かもしれないけれど、しっかりトレーニングして私たちの生活に支障がないようなレベルにして、そのうえで家族として友達として接する—そんな文化がドイツにはあるように思います。

◆大石 補助犬にも分類があり、それぞれに役割があると思います。どんな点に気を付けて接したらたらいいでしょうか。

◆川口 私の足元にいるのは盲導犬です。私たちの指示によって動きます。何をしてくれるかという、障害物をよけたり、交差点や段差の手前でぴたりと止まってくれたりして次の指示を待ちます。今度は私が頭の中の地図に従い進む方向を指示し、一緒に歩いていきます。皆さんは盲導犬がすごく賢くてどこへでも連れて行ってくれるというイメージで見ているかもしれませんが、人と犬がそれぞれの力を合わせて一緒に歩いていくというイメージでとらえてもらえればうれしいです。

介助犬は手足の不自由な方のための補助犬です。車いすを使っている方が多く利用しています。下に落ちたものを拾ったり、車いすを引っ張ったり、エレベーターのボタンを押したりといろんな仕事があります。

聴導犬は耳の聞こえない方のためのワンちゃんです。インタホンが鳴ったとか、ファックスが届いたことをユーザーに知らせてくれます。

現在県内では盲導犬47匹、介助犬と聴導犬はそれぞれ3匹、合わせて53匹の補助犬が活躍しています。

皆さんに4つの約束、お願いがあります。支援センターのパンフレットにも載せていますが、触らない▽見つめない▽声を掛けない・話し掛けない▽食べ物を与えない—です。このどれをされても補助犬たちが集中力を欠くものになってしまう。かわいいと言ってくれるのはとてもうれしいのですが、そこをぐっと我慢して、この4つのお願いをぜひ守っていただきたい。

◆大石 一通りご発言をいただきました。人と動物のかかわりにはさまざまな形があるように思います。日本では捨て猫や捨て犬がしばしば問題になります。オリバーさん、欧米などと比較してどうでしょうか。



## 東京五輪・パラリンピックを動物福祉向上に生かす ハード面には限界、支え合い・おもてなしでカバー

◆オリバー 日本では捨て動物は捨てられている動物、英国の場合はほとんど飼えなくなった動物です。いろんな事情があって飼えなくなるわけですが、日本にはセーフティーネットがないから、捨てるか保健所しかありません。逆に英国は捨てる必要がないし、安楽死です。殺処分じゃないです。ペットショップやブリーダーの段階でも殺処分があると思いますが、実態が不透明でその実数はつかめていません。

開発途上の南アジアやアフリカなどの国々は人々が貧乏と戦っているからもう仕方がないです。日本は欧米と同じレベルにあり、熱心に取り組むようになってきましたが、それでもまだ動物福祉が足りないと言われます。2020年の東京五輪・パラリンピックは日本の動物福祉にとっていい機会になると思います。

◆大石 動物福祉の面でもアジアのリーダーシップを取れ、というご指摘をいただきました。菊地市長、具体的に動き出したものはありますか。

◆菊地 その前に20数年前、PKO（国連平和維持活動）でモザンビーク



菊地 豊氏

教師を紹介してもらいました。そのドイツ人の男性は外での犬の鳴き声に耐えられない方で授業にならない。「なぜ鳴かせるのか。こんなこと日本では許されるのか」。1時間続きました。

4年後に五輪・パラリンピックでいろんな外国の方が来られた時、例えばドイツや英国の方は飼い犬が吠えたり、足元にじゃれついたり、抱きついて来たら「考えられない」と驚くでしょう。あるいは伊豆市は人口よりシカの数が多いと言われていますから、シカとかタヌキとかが道路でたく

さん交通事故にあっているわけです。速やかに対処しないと、「先進国なのになんでシカが道路で死んでいるんだ」みたいなことになりかねません。

多様な価値観がありますから、私たちの中では「これは普通、ちょっと気になるけれどそれほど驚くことではない」と思っている、ある国の方からみたらすごく「特殊なこと」かもしれない。モザンビークの話に戻りますが、国連の白い車で走行中、道端で小さなシカを売っていました。現地では当然食用です。ちょっといい子になって、かわいそうだからと買って助けてあげました。日本の週刊誌に「シカを助ける日本のPKO部隊」なんて取り上げられたのですが、多様な価値観の中では、「良し」とする考えがある一方、「貴重な食糧だ。何を言っているのか」とする見方があるかもしれません。

ですから私たちの価値観だけではなしに鳥瞰、宇宙的な視点から先進国である日本がどのような対応を取るかということをも根本的に考える絶好の機会だと思っています。

基本的には動物との共生、具体的なユニバーサルデザイン、ハンディキャップのある方々などへの対応はゼロベースで考えていきたいところですが、ハード、ソフトの両面があり、ハードについては全部は4年間ではとても間に合いません。

20歳のころ初めてのドイツ旅行でハンブルグに行ったとき、中央駅に降り立って地図を広げたらあつという間に3人の方が集まってきて「どこに行きたい」「何が困っている」「荷物はベルトコンベアで降ろす方法がある」など支援の声をいただきました。ハードでできないところは支え合い、言い方を変えればおもてなしでカバーしていくことを考えるチャンスだととらえています。

◆大石 川口さんはイベントや講演などに目隠しをするブラインドなどの体験を取り入れていると思います。そうした場でどんなことを感じられていますか。

### 補助犬法施行から13年、深まらない理解 潜在ユーザーいるが、手が挙がらない現実

◆川口 私たちがユーザーとして使っている盲導犬は体験歩行などの形で利用することはできないのですが、イベントでは訓練所の方から体験用のワンちゃんを連れてきて一般の方に体験していた

だくことがあります。ブラインド体験も普段見えている方が目隠しをされるとやはり怖いのでしょうか、腰が引けてしまう方が結構いらっしゃいます。仕方がないというか、当然のことですね。

補助犬はユーザーさんが社会参加を積極的にするために訓練を受けて一緒に生活しているワンちゃんたちです。ユーザーが自分でお金を出して飼うのではなく、静岡県の場合は県の方から福祉予算を付けて出してもらっています。現在は10匹分の予算が確保されていて恵まれた環境にあると言えます。ただ毎年10匹出ているかというのと、そうではなくて、希望者さんが手を挙げられないというか、まだ知らないという状況があると思います。手を挙げる方がもっと増えてくれるといいなと思って活動しています。

社会参加しようとするとうちにはいろいろなバリアがあります。オリバーさんは英国ではどこへでも行けるが日本はそうじゃないとおっしゃっていましたがその通りです。補助犬法ができて13年経ちますが、まだまだ県内では拒否されてしまうという事例があります。昔のような頑固な拒否というか悪質な拒否は減っていますが、経営者は知っていてもアルバイトの店員さんは知らずに断ってしまったというケースもあります。この法律を知っていただくとともに、補助犬に対する理解がもっと広がるようにしていかなければと思っています。

県のユニバーサルデザインのおもてなしの接客サービス講座を私たちの方で担当させていただき、県内で実習プラス講義の一日講座を開いてきました。旅館やレストランといった現場の方や行政の方などが受講され、「やっぱり聞いてみないと分からないことがいっぱいあった」という感想を頂戴しました。東京五輪・パラリンピックを視野に入れますと、おもてなしなどソフト面で、こういった研修が欠かせません。ボランティアやスタッフの方々に知っていただくことも大事だと考えます。

◆大石 今日のもう一つ、テーマとしてしっかり話しておかなければならないことがあります。冒頭で運営委員長から報告がありましたように、沼津市内にアニマルシェルターのような施設を作る構想がストップしています。たくさんの課題があると思いますが、アニマルシェルターのような施設、活動がいろんな地域に広がっていくためには

どんなことが必要でしょうか。経験豊富なオリバーさんにアドバイスをお願いします。

ボランティア頼みは行き詰まる。寄付を広範にふるさと納税やクラウドファンディングも有効

◆オリバー 講演でも申し上げましたが、シェルターを作る際に大事なことはバランスです。スペースの問題と、スタッフやボランティアなど世話をする人、そして資金。お金儲けが目的ではありませんが、お金がかかりますから重要です。阪神淡路大震災の時に保護した犬の中には10年以上いた犬がいます。飼い主が放棄してくれれば里親に出すことができますが、放棄しない方もいますので10年の間に亡くなった犬もありました。次々と里親に出せばいいが保護が長期に及ぶことも覚悟しなければなりません。ボランティアとお金が続かなければ運営ができないのです。お金が続かないとスタッフが離れていくし、餌代や治療費にも事欠き、避妊去勢が減れば動物が増える。もう悪循環ですね。ボランティアも数の問題だけではなく、運営がスムーズになるよう時間や任務・担当などの調整が必要でかなり気を使います。全部ボランティアでというのは限界があります。スタッフならその点は安心ですが、給料がかさみます。

うちはもう何年も前から来ているボランティアがたくさんいます。ボランティアを大事にしながら、メインはスタッフに置いています。一人当たり16匹がリミット、それ以上はお手上げになるからスタッフがさらに必要になります。

◆大石 具体的に運営費、いわゆるランニングコストはどのくらいかかりますか。施設の整備には億単位ですか。

◆オリバー かなりかかります。アークのメンバーとか里親、サポーターなどいろんな方にアピールして集めます。寄付金は英国や日本の動物福祉協会などさまざまところにサポートしてもらっています。うちのメンバーは全国に広がり、海外からも加わってもらっています。

◆大石 寄付という点では近年注目されているものにふるさと納税制度があります。菊地市長、いかがですか。

◆菊地 財源についてはふるさと納税だけでなく、クラウドファンディングのように目的を明確にし

た寄付が考えられます。外国から募るのもいいでしょう。ドイツには国際平和村というところがあってアフガンとかアフリカでケガをした子供たちを呼んで手術をし、ある程度回復したら戻すという事業をしていますが、ほとんど寄付金で賄われています。日本からも大量の寄付がいつています。これだけネットが発達した社会ですから、クラウドファンディングの対象を国内だけとしなくてもいい気がします。財源の確保には行政の責任もあるかもしれませんが、もう少し多様に考えてもいいのかなと思います。

◆オリバー 話し忘れたことがあります。お金とは別に餌とか毛布とかいろんな寄付をもらいます。寄付は1円まですごく大事にしないといけない。阪神淡路大震災の時にグループは日本動物福祉協会と獣医師会、アークの3つでしたが、東日本大震災ではいろんなグループが出てきました。怪しいグループもあった。震災の時は寄付する人が飛躍的に増えるから経理はきちんとしてね。

◆大石 川口さんが今やっている支援センターも寄付金で成り立っている部分があるかと思いますが。

### ユーザーも補助犬も高齢となる老後が心配 英国のようにペットOKのホーム増やそう

◆川口 補助犬ユーザーへの医療費の補助は、皆



川口 綾氏

さんからの寄付で賄っています。赤い羽根共同募金の使い道を選べる募金に団体参加し、補助犬の医療費やドッグフード代に使ってもらうためのものだと明記しています。

盲導犬や介助犬をもらうところまでは県のお金で行けるのですが、その先はユーザーさんの自己負担です。希望者で経済的にちょっと苦しい方などはここでもうあきらめてしまいます。ユーザーであっても高齢になって仕事ができなくなった方もいます。そういう方のために募金活動をしてい

ます。

補助犬もリタイア後、医療費が必要になります。多くがリタイア犬ボランティアのところに行きませんが、医療費への補助があれば助かるし、支え合いの好循環になると思います。

全国的に見ると、こうした維持費の部分に関して補助が出ている自治体はなくはないのですが、まだまだ少数です。

◆オリバー 高齢化社会、お年寄りの話をさせて



エリザベス・オリバー氏

ください。日本の70代はすごく元気で行動的です。運動を続けたいから犬が欲しくなります。その犬はペットショップで売っている1カ月の子

犬です。数年たって本人が病気になり、入院したら、その犬が5、6歳で飼えなくなってしまいます。アークで増えているケースです。もう一つは飼い主も犬も高齢化しているケース。飼い主は老人施設、ケアホームに入らなければならないが、犬はダメで飼えなくなくなります。そこに目を付けた老犬ビジネスが増えてきました。とても心配です。老犬は何百万円も払って施設に入り、飼い主はケアホームへと別れ別れになります。

英国はというと、ペットOKのケアホームが9千以上、老人施設はペットOKで、ペットを持っていなくても施設にはロバやウサギなどがいます。ケアホーム、ペットと一緒に行くのは当然のことですが、日本はほとんど断っています。お年寄りが増えていく中で大きな問題だと思います。

◆大石 東京五輪・パラリンピック開催の2020年、伊豆、東部地域は世界から注目されるでしょう。富士山をはじめとする景観、食べ物、温泉などいろんな良さが発信されていくことも大事でしょうけれど、そこに住んでいる人たちの心、気持ちが端的に表れるのは動物との接触、要するに共生できているかではないでしょうか。オリバーさん、このあたりの世界基準とはどのようなものでしょうか。

## 動物と暮らすには飼い主に義務と責任が伴う 日本人は命を大切にし ありがとうを忘れない

◆オリバー 英国は盲導犬にもトレーニングの方法などに統一的な基準があります。ペットも法律で飼い主の義務としてどんどん基準が厳しくなっています。餌、治療、虐待はもちろんのこと、飼い主が虐待になることを知らなかったと言っても通用しません。虐待の前に告発することもできません。飼い主の義務について日本は盲点だらけです。

◆大石 動物を飼う、動物と暮らすには義務と責任が伴うということですね。伊豆は観光地として海外からの観光客をもっと受け入れていく必要があると考えます。菊地市長に伺います。もう一步活性化させていくためには何が大事でしょうか。

◆菊地 ドイツを例に日本人との価値観の違いを取り上げ、世界は多様な価値観にあふれているという話をしてきました。強調したいのは日本人は命を大切にする国民だということです。食事の前には手を合わせて「いただきます」という国民です。ドイツ人のように「良い食欲を」なんていう挨拶はしません。クジラにしても皮も髭も脂も全部使い切って「大切な命をありがとう」と言っている国民です。ただ他の先進国に比べ「ペットに対してあまりにも冷たいじゃないか」というのは慙愧に耐えない気がします。

アニマルシェルターについては私は当事者でもないし、検討したこともありませんが、毎年2500頭ものイノシシとシカを駆除している伊豆市長の立場から、生きている動物とか残念ながら飼えなくなったペットとか、外で放置されているケガを負った野良猫とかを、どのように我々の家族・友人として命を大切にする国民として、庇護し保護していくかということを考える時点に来ていると感じています。そういう事業・施設が伊豆半島のどこかにできることは観光地の名を貶めることではなく、むしろ好感をもたれるのではないかと思います。その折にはコンクリートではなく木を使った伊豆版のアーク、ティアハイムができればいいなと考えました。

◆大石 オリバーさんから直接、お話を聞く機会はなかなかありませんので会場から質問をいただき、応答に時間を割きました。既に時間オーバーですが、何か言い残したことがあれば、川口さん

いかがですか。

## 障害者差別解消法の円滑な受け入れ願う 動物福祉の基礎は毎日の生活レベルから

◆川口 4月から障害者差別解消法が施行されます。入店拒否などに対し合理的配慮を求められるケースがあるかもしれませんが、この法律がよく理解されてすんなりと受け入れられるような社会になってほしいと願っています。

◆大石 オリバーさん、この地域が人と動物が共生できる社会を目指すうえでのエール、応援メッセージをお願いします。

◆オリバー 動物福祉には基礎、ベースが必要です。木を例にとると上手に育っていないと果物も実りません。木の根まで思いを巡らせていないと育たない。動物福祉でもペットを含め私たちの毎日の生活レベルから考えなければなりません。それが基礎です。

◆大石 人と動物が共生できてこそ本当に豊かな社会になると考えます。そのためにはクリアしなければならないことがたくさんあります。だからこそこの伊豆、東部の地域で実現していきたいと強く思います。まだまだ足りないことがあるし、勉強不足も否めません。施設を作ることこそそうですし、それに向けて勉強していくことが一番大切なことだと思います。

### 〈パネリストプロフィール〉

■きくち ゆたか 氏 1981年防衛大学卒業後、陸上自衛隊に入隊。防衛大学教官。国連モザンビーク平和維持活動に携わる。在ドイツ日本国大使館防衛駐在官、第5普通科連隊長などを歴任し、2007年一等陸佐で退官した。2008年伊豆市長。現在2期目。昨年12月、東京五輪の自転車競技(トラックとMTB)が伊豆市の「伊豆ベロドローム」で開催されることが決まった。1958年伊豆市(旧天城湯ヶ島町)出身。

■かわぐち あや 氏 高校の家庭科教師だった25歳の時に交通事故に遭い、視力を失う。その2年後に最初の盲導犬と生活を始めた。28歳の時、同じ高校教諭と結婚。二児の母。2010年4月、NPO法人静岡県補助犬支援センター理事長に就任した。補助犬は盲導犬、聴導犬、介助犬の総称。精力的に大学や専門学校、行政機関などに出向き、補助犬への理解を深めてもらう啓発活動を展開している。掛川市在住。

### 〈コーディネータープロフィール〉

■おおいし ひとし 氏 静岡銀行入行後、1982年静岡経済研究所出向。2005年より研究部長、2012年理事。専門分野は地域経済、企業経営、まちづくり、商店街活性化、行政改革など。静岡地方労働審議会委員、静岡県社会資本整備重点計画・推進会議委員など県をはじめ、島田市、藤枝市、三島市などの委員を務める。1956年藤枝市出身。

第21回全体会

2015年12月15日開催

## 来季こそ公式戦出場、 アスルクラロのJ3昇格目指す 元日本代表FW 中山雅史選手がトークショー



県東部の活性化策を提言する静岡新聞社・静岡放送「サンフロント21懇話会」（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長）は第21回全体会を12月15日、沼津市の沼津リバーサイドホテルで開いた。今年9月にアスルクラロ沼津に電撃入団したサッカー元日本代表FW中山雅史選手をゲストに招いたトークショー「中山雅史 飽くなき現役への執着～なぜボールを追い続けるのか～」を行い、本年度の活動方針に掲げるスポーツ産業の創出支援の一環として日本フットボールリーグ（JFL）アスルクラロ沼津のバックアップを確認した。

会員ら約150人が参加し、中山選手は現役復帰を決意したいきさつや現在のコンディション、来季への抱負などを語った。現役復帰への思いがこもった熱情的で軽快なゴン節が次々と飛び出し、会場を大いに沸かせた。

主催者を代表して北村敏廣静岡新聞社代表取締役専務は「スポーツが地域に与える波及効果は大きい。アスルクラロ沼津のJ3昇格は広域的な地域活性化に貢献するものだ」と強調した。

開催地・懇話会代表として栗原裕康沼津市長は「今年はあと一步のところまでJ3入りを果たせなかったが、沼津はもとより近隣市町が協力して県東部からプロのサッカーチームを送り出したい」と述べ、来季への期待を込めた。

## 主催者代表あいさつ



静岡新聞社代表取締役専務

北村敏廣

2020年東京五輪の自転車競技のうちトラックとマウンテンバイクの伊豆市開催が決まりました。国内外に伊豆の魅力を発信する絶好の機会であり、競技力向上にとどまらず、自転車に関連した観光、産業の創出につなげていきたいものです。また当懇話会は本年度の活動テーマの一つとしてスポーツ産業の創出支援、特にJ3昇格を目指すアスクラロ沼津の支援を掲げています。スポーツが地域に与えるさまざまな波及効果を重視しているからであり、地域経済の活性化や競技力の向上、青少年に夢を与えるなどアスクラロ沼津のJ3昇格は広域的な地域活性化に大いに貢献するものと考えています。

本日のゲストにお招きしましたサッカー元日本代表の中山雅史選手はこの9月、47歳で現役復帰を決め、アスクラロ沼津に入団されました。まだ試合出場には至らないもののアスクラロ沼津の切り札といえる存在です。来季に向けた現役継続の決意をはじめ、名実ともに大選手である中山さんがなぜ現役にこだわるのか、皆さんとともに興味を持ってお聞きしたいと思います。

## 懇話会代表あいさつ

サンフロント21懇話会の皆様方には県東部地域の活性化についてさまざまご提言、活動をしていただき、改めて感謝申し上げます。

一つ皆様方に残念な報告をしなければならないことがあります。それは懇話会の皆様からご提言をいただき、私どもも非常にいいことだと思って推進してまいりました「人と動物の未来共生センター」構想が地元の説得に手間取る中で、財団の方から「もういいよ」という表明があり、実現に至らなかったことです。皆様方にも大変ご迷惑をお掛けしましたけれど、ご了解をいただきたいと思います。

今季のアスクラロはもう少しのところでJ3入りが果たせませんでした。来年はJ3の枠が増えることもあって、頑張ればJ3入りの可能性がより高くなると期待しているところです。沼津市はもとより、近隣の市町の方にもぜひご協力をいただいて県東部からプロのサッカーチームをサポートする機運を盛り上げてまいりましょう。



沼津市長

栗原裕康

## トークショー

# 「中山雅史 飽くなき現役への執念 ～なぜボールを追い続けるのか～」



ゲスト・  
サッカー選手  
中山雅史 氏

野生児のゴールハンター、  
逃したゴールも数知れず

—ジュビロ磐田時代に数々のゴールを記録し、黄金期を支える中心選手として活躍したゴン、中山雅史選手がピッチに戻ってきました。4年前、44歳の時に現役に終止符を打ち引退されたと思っていたところ、突如現役復帰を宣言されました。きょうは何が現役復帰を決意させたのか、現在のコンディションはどうか、そして来シーズンはこのまま地元へ貢献してくれるのか。そのあたりをご本人の口から語っていただこうと思います。久々にお会いしましたが、変わってないですね。

**中山** そんなことはないですよ、お腹の周りとかは。体重はバリバリの時より2、3kg減りましたが、たぶん筋力が落ちたからでしょう。脚も細くなったし、お尻も小さくなった。太くしようと努力していますが、なかなか太くなってくれない。もどかしいですね。

—出会いは彼の高校時代からですが、藤枝東高のエースストライカーとして全国高校選手権に出場し、そしてヤマハ発動機—ジュビロ磐田とみてきた躍動感あふれるプレーは今でも目に焼き付いています。野生児みたいでしたね。

**中山** もう勢いだけ。SBSカップに出た時、解説者の県サッカー協会長堀田さんが「百姓一揆のようだ」と表現されたのを覚えています。鎌を



聞き手・  
SBSシニア  
プロデューサー  
澤木久雄 氏

もってファーと勢いよく飛び込んでいくというようなイメージだったのでしょうか。

—ボールを持ってゴールを狙う姿が素晴らしかったけれど、ボールがない時でもコースに飛び込んでくる姿も素晴らしかった。

**中山** それをしないとグラウンドに立てない。というよりもそれが自分のプレーだと思っていましたから。それしか頭になかった。

—そんなに器用なプレーヤーではなかったということですか。

**中山** いや器用でしたよ（笑い）。まあ皆さんもご承知のように足元がたけているわけではないですし、ボールをキープするにはいろんなところを使うしかない。それがおぼつかなくて、本当にムカついてしょうがなかった。だからプロとしてやっている時にも試合が終わると反省点というか、自分のミスばかりが頭に残っていてどうすればいいんだろうという気持ちの方が強かった。

—もどかしさやジレンマを強調されますが、157ですか、たくさんのゴールを奪ったじゃないですか。

**中山** まあ4試合連続ハットトリックとか派手な記録はありますが、チャンスはもっとあったから、決めていれば今、佐藤寿人（広島）に追いつかれていません。300ぐらいいってもおかしくない。相当いいパスが来ているのに、それを外しまくって皆にゴメンという。僕は皆に育てられたと思っています。

## 緊張した練習参加、 体力・筋力もっと鍛えなければ

—9月にご当地のアスクラロ沼津に電撃入団発表を行い、チーム練習にも参加されています。練習に加わってどんなことを感じましたか。

**中山** 緊張しました。試合に向けての練習に加わったので、自分が入ってチームに迷惑をかけてはいけなくて精一杯でした。生半可な気持ちでは来ていないという姿勢をプレーや声で見せていく。そんな緊張感一杯で練習に参加させてもらいました。

—ゴン中山ほどの選手であっても緊張感や不安が伴うものですか。

**中山** アスクラロというチーム名は知っているけど、どういうメンバーがいて、どういうプレーをするかは全然分かっていません。その中に入って一緒にプレーするというのは難しいことで、ボールがあれば意思疎通ができるとかいうレベルを超えています。どんなプレーをするかによって、先読みして動き出しをするわけですから、非常に緊張したし、終わった後はクタクタでした。フレッシュな気持ちにはなれたけれど、同時にそれでクタクタではどうしようもない。余裕をもってやれるような体力的、筋力的なものをまだまだ高めなければいけないという思いがより強くなりました。

—10月のホーム愛鷹での仙台戦はベンチ入りこそしませんでしたけど、普段の2倍強の観客を動員し、「39」番のユニホームが結構売れたと聞いています。まさにゴン中山効果です。その後、練習試合に出場されていますね。

**中山** 僕だけを見に来ているとは思いませんが、ありがたいですね。半面、ちょっと怖い。今、自分のプレーがどこまでできるのか、それと皆さんの期待とのギャップがあるので、それを埋める作業は非常に大変です。

練習試合でピッチに立ったのはラスト8分。吉田監督に「ゴンさん行きましょう」と言われていてアップも十分にしていたのですが、なかなかボールに触れず、結局1回も触らずに終わりました。2-1で勝っていた試合で引いて守ってカウンター狙いという中で、僕は引かずずっとボールを追いかけていました。チームの戦い方を無視して

いるわけだから取れるわけがないんですけど、自分を試したかった。でも疲れちゃった。サッカーってこんなに疲れるのかと思いましたね。その夜、SBSとは別の局のサッカー番組に出た時、プレー映像が流れたのですが、自分ではこのくらい行けていただろうというイメージとのギャップが歴然としていて打ちひしがれました。

—反省というよりも今の自分の限界なのかなという感じですか。ブランクは本当に大変なことですね。

**中山** 何回か練習に参加させてもらっていますが、1回ハードな練習をすると、膝に水がたまったり痛みが出たりするので、東京に戻っていい状態にケアしてもらって、また来るといことの繰り返しになりがちです。どうしても間隔があいてしまうので、東京で鍛えられるものと取り組み、自分を高めていかないと。でないと自分の目指すところ、チームに貢献するというレベルには到達できないと思っています。

## ケガは自分であることの証明、常に前向き

—ここからはなぜ入団を決意されたのか、なぜ現役復帰を目指したのかについてお聞きします。

**中山** 現役復帰に対する強い思いはずっとありました。札幌退団の会見でも（引退という）2文字は使いませんでした。リハビリを続けなければならぬ状況でしたので、いい状態まできたらまたプレーヤーとしてピッチに立ちたいという願望がありました。膝の状態とか、MRI診断や整形外科の先生の話聞いて厳しいなということは当然把握してはいたけれど、リハビリを進め一つ一つの段階をクリアしていくと欲が出てくるんです。ここまで来たら次はどこまで行けるのだろうかとか模索して来て9月を迎えたわけなんです。僕は4人のトレーナーにお世話になっていて、この夏、そのトレーナー陣と話している中で次のステップに行ってもいいのかなということになったんです。どこのチームにも所属せず、何を求めていくのだという点でトレーナー陣のモチベーションが低下してもいけない。だったらまず飛び込んでみようか、挑戦を始めようという流れが固まりました。

—誘ってくれたのはアスクラロ会長の山本昌邦さんとお聞きしていますが。

**中山** そうです。（昌邦さんには）ジュビロで



もコーチ、監督としてお世話になっていましたし、大学からヤマハ発動機に入ったのも昌邦さんに誘われてということもあったので、いろいろアドバイスをいただいていた。1年ぐらい前には「アスクラロというチームがあるから、練習に来たらどうだ」と言ってもらいました。この時点ではまだまだの状態でしたが、サッカーの動きにトライしていけるようになり、また昌邦さんから声をかけていただいたので、僕自身の状態を説明し、「1回出たら膝の状態が悪化し、リセットして再び参加するという繰り返しになりますが、それでもかまわないですか」と言ったら「いいよ」とおっしゃってくれてお世話になることにしました。

—いい出会いですね。これまでお話を伺っていて「たぎり続ける情熱」というものを強く感じます。現役を一時離れなければなかったのも、年齢というよりもケガだと私は思います。ファンの方はご存知でしょうけれど、ケガというか故障との戦いの連続、それを乗り越えてゴン中山があるわけですが。

**中山** 一番手術が多かったのはワールドカップの翌年、1999年です。目の周りの骨から両膝の半月板、手とかいろいろやって、この年は計4回手術をしました。ケガをした時にはああしなきゃ、こうしなきゃよかった、そこに行っていなければこんなケガをしなくてもすんだと思いがちですが、僕の場合にはこれをしているからピッチに立てているんだというところがあります。人がいかにいかにところに体を投げ出すからチームに必要としてもらっているわけで、そこでケガをしたんだしたら自分の証明だからしょうがない。その後は今までより強い自分でグラウンドに立てればいいと思ってやってきました。

—幸いなことに1年も掛かるようなケガがなかった。ただ目のケガでは最初、復帰まで8カ月と言われました。もうちょっと短くならないですかと言ったら6カ月、もうちょっとまけてで3カ月、結局2カ月で復帰しました。先生はもう1回同じような衝撃を受けた場合が心配だと言われましたが「それはもう2カ月も3カ月も6カ月も8カ月も一緒。もしそうなったら申し訳ないけど先生もう1回やってください」というかたちで出てきました。

—切り替えが早いというか、前向きというか。あまり引きずらない？

**中山** そこだけ（ケガの部位）でほかは元気だからじっとしてられないんですよ。入院はしていましたが、何かできることはないかと考え、非常階段の上り下りを始めました。8階だか9階の個室から一番下の霊安室まで。眼圧をかけてはいけないと言われていたので、顔はリラックスする中で腿（もも）やお尻には力を入れてね。一通り終えて部屋に戻ったら、当時の桑原隆監督がお見舞いに来てくれていて「無理するな」と言われました。

ケガを引きずっていても何の効果もないし、いいことはないんです。サッカーはコンタクトプレーが多いし、恐怖心を持っていたらピッチには立てません。ただリハビリは単調で長いから、状態が良ければ明るくなるし、悪ければ暗くなるしということの繰り返しです。そんな中で自分を鼓舞し厳しくするのも、ぬくぬく優しくするのも自分です。どれだけ自分に厳しくできるのか、そして休まなければいけないところはトレーナーにしっかり指導してもらって、自分で納得して休むということを中心に掛けていました。でも自分で自分をコントロールするというのは非常に難しいことです。トレーナーに「やってもいいけどやらなくてもいいよ」と言われたら、心配や不安があるから「やってもいい」方に行ってしまう。

### 伸びしろ・可能性は消すな、勝負には貪欲さを

—コントロールは難しいけれど前向きに考えようとする気持ちと衰えない情熱の2つが、今日の現役でいようとするゴン中山の支えであるということがよく分かりました。ここで話題を変えたいと思いますが、サッカーを取り巻く環境は激変しました。どのように感じていますか。

**中山** 今やっている人たちは幸せだと思います。クラブハウスがあって芝生がビシッとした中で練習でき、試合もスタジアムで行われる。こんな恵まれていることはありません。その恵まれた中でやっているから不満も出てくるような気がします。僕らは何もないところからスタートしていて、次から次へと上乘せされたものに対して不満を持ちませんでしたから、気持ち的には幸せだったのかなと思います。

澤木さんも知っているでしょうけれど、ヤマハ発動機の練習場、今のジュビロ磐田のクラブハウ

スですが、あれはもともと野球場です。野球の内野は土ですから、その外の外野をサッカー場に見立てて練習していたんです。着替えは一塁側ベンチで、シャワーがないからホースを引いて水を浴びて汗を流して帰っていました。それがやがてクラブハウスとなるわけです。

—日本代表というか、トップクラスの選手の心構え、姿勢について感じることは。

**中山** 昔の人はどっちかというところと喜怒哀楽が激しかった。今の人も中には熱いものがあるはずだが、しっかり表現できていない、伝わっていない部分があるような気がします。伝わらないのはやり切れていないからです。どうしたらいいか。試合での姿勢だったり技術論だったり、いろんな人の話に耳を傾けることが必要です。アドバイスが必要か必要じゃないかの前に「アドバイスはいりません。僕には僕のやり方、プレーがある」などと、何も口を挟まないで的対な対応では成長がないと思います。まず聞いて、それが必要なら取り入れればいいし、必要でなければその時点で判断して消化すればいい。壁を作るのはよくないと思います。

—一流選手は個がしっかりしていなくてはいけないのですが、でもかなりの選手が素直になりたいたいんだとよく言います。

**中山** はい、僕はいつでも人のいいなりです。ドーハの悲劇があったオフト監督時代、ラモスさんやカズさん、北沢さんらは猛烈に嘯みついていました。「なんで俺らを指笛で動かすんだ。犬じゃないんだ」などと盛んに言っていましたけれど、僕は犬です。ピーと指笛を吹いたら「走りますよ、監督」。それだけ代表に生き残りたい。最後のチャンスだと思っていましたから、是が非でも生き残ってやる。「行けというならどこまでも行くし、走ります」。そういう姿勢でした。

—ボチだったとは知りませんでした（笑）。サッカーを取り巻く環境の変化で国際化とともに挙げられるのが平準化です。そのためか静岡県サッカーは相対的に全国発信度が弱くなった。どうすればいいのでしょうか。

**中山** それぞれの選手の良さをどう取り上げていくかだと思います。技術水準をはじめレベルはすごく上がっているけれど、突出するものがなくなっている気がします。その選手のここがいいというものを消さないで、粗削りのまま上に送り出

せるような指導が必要なのかなって。難しいところではありますが、伸びしろとか可能性の部分を消してしまっているようにも映ります。後は勝負に対してもっと貪欲になってほしい。自分のプレー、思い描いたプレーができればいいじゃなくて、それによって勝利をつかみ取るという気概です。このボールは渡さないという球際の強さもそこにあると思います。

—その点ではゴンは本当に一流でした。

**中山** それをしないことには国際ゲームでは勝てません。去年のW杯ブラジル大会を思い出してください。日本代表の2戦目のギリシャ戦です。ギリシャが1人少ない状況でも攻めあぐね、結局ドローに終わった。あの時、ギリシャには最悪でもドローで終わるという意味統一があり、球際やプレー、表情、コーチングにも出ていた。途中、10番のキャプテンが出てきて「ここから行くぞ。お前ら俺のプレーを見ておけよ」というメッセージが伝わるプレーをスライディングなどで見せました。「これぐらいやらなければ勝ち点1は取れないぞ」と鼓舞し、全員がそれを理解して守り切った。そこを日本は崩せなかったわけですが、ギリシャは最終戦に勝って決勝トーナメントに進出しました。この強さ、気持ちというのはなかなか鍛えづらい、教えづらいところですけど、子供のころからどう養っていくか、難しい課題ですね。一時期、学校体育では運動会でみんな手をつないで一緒にゴールということがあったけれど、負けたら悔しい、勝ったらうれしい、それを素直に表現できるというのも自然でいいと思いますけど。

### 強いアスルクラロを育て、 地域の活性化につなげよう

—ゴンが入団したアスルクラロ沼津はサッカーはもちろん、テニスとかも含めた総合地域スポーツクラブです。全国にこういうクラブが誕生し、地域で子供たちを育てる、支えていくという動きになっています。これからの日本にとって大事な視点ではないでしょうか。

**中山** 昨今は地域でコミュニケーションが不足しているというか、横のつながりが希薄になっています。そういう意味ではアスルクラロがコミュニティの場になればいいと思います。子供を預けたり、トップの競技を目指したりするのは当た

り前ですが、楽しむスポーツ、生涯スポーツとして活動していく。そこに人が集まることによってコミュニケーションが取れ、それがまた生活を豊かにしてくれることにつながればいいと思っています。理想的には大きなスポーツクラブとなり、まちのシンボリックなものとなってくれば皆のよりどころとなるでしょう。家族の会話にも入ってきます。「昨日のアスルすごかったね。中山が6点取っちゃったもんね」というようになれば。

— (出身地の) 藤枝はサッカーどころ、清水も、そして浜松、磐田もジュビロを含めてありますが、東部にはそういうものはありませんでした。

**中山** あると言えば (バレーボールの) 東レぐらいですか。でも企業スポーツ色が強い。やはりアスクラロは地元を象徴する存在になりうと思います。今まで藤枝や清水、遠い西部のジュビロに向いていたものが地元のクラブに向くようになれば、まちの活性化に役立ってほしいという思いをもって応援してくれるでしょう。それこそグラウンドに行こうよ、応援しに行こうよということで、全然知らない人と隣同士になっても応援するチームが一緒だったら喜びは一緒になります。ゴールや勝利が決まった瞬間のハイタッチや抱き合う姿が想像できます。そこでまた人とのつながりができていったら、地域を活性化することにつながっていくのではないかと思います。

—ぜひそうしてほしい。アスクラロがそういうクラブに成長するためのポイントは何でしょうか。

**中山** 当然アスクラロの成績が上がらないと皆も注目してくれませんかし、応援する気になってくれません。まずチーム力を上げること、皆が応援してくれるクラブになることが最重要課題です。そのためにはある程度の資金が必要であり、そこで活躍できるのが皆さんです。僕がここにきて汗を流しながら熱弁するのも、皆さんの力があればアスクラロはまだまだ躍進できると思うからです。

アスクラロの選手たちは働きながら練習して試合に臨んでいます。みっちり練習できるのは1時間半ぐらい。だからその時間を非常に大切に、自分の思いをぶつけ、成長することに賭けています。僕にはすごく新鮮に映りました。前の所属チームの若手がサッカーをしていない時に何をやっているかと言えばゲームセンターに行くなどいろ

んなことに費やしていました。サッカーにつながる人が多くて歯がゆさを覚えました。それは実力があって上にいる、下にいるから致し方ない状況かもしれませんが、サッカーに賭ける思いはよほどこっちの方が強いのかなと感じています。限られた時間をサッカーに充てているわけですからクラブの方も力を入れてパワーアップを図ってあげたいと思います。アスクラロは沼津と付いていても三島の方も富士の方も富士宮の方も東部の活性化につながるという思いを強く持って盛り上げていただきたい。行政の協力も欠かせません。まずはスタジアムを造ってもらいたいですね。

—先ほど指導者の話が出てきましたが、子供たちにはどんなことに気を付けて教えてほしいと思いますか。

**中山** 低学年はまず楽しさです。サッカーが楽しいが一番。そこから小学校高学年になってくれば、勝ちたいがために周りに罵声を飛ばす負けん気の強い子が必ず出てきますから、そういう子供の気持ちを押しさえつけず、しかも周りが委縮しないようにコントロールできる指導者、指導が必要じゃないかと思います。また小学、中学年代は基礎技術を習得するのに一番適した年齢です。基本技術は地味なことを延々というか繰り返して身につくものですから、つまらないと思わせないようなメニュー構成だったり、ゲーム感覚を取り入れたりすることが重要です。高校生になれば体ができてきますから、持久力や筋力のアップを図ったりしながら、最終的にはプロに押し上げていくことになると思います。その地域で育った選手がトップチームに上がり活躍するようになれば、地域が盛り上がります。ましてやその選手が隣の子だったら、まちぐるみで応援するようになるでしょう。

### 来季へ契約更新、 日々成長を果たし期待に応えたい

—きょうアスクラロ沼津から私どもメディアの方にプレスリリースがありました。「中山雅史選手、2016シーズン、アスクラロ沼津、契約更新のお知らせ」と。ご当地沼津のファンとしては最高のクリスマスプレゼントです。

**中山** 皆さん本当にうれしいと思ってしてくれてい

るのでしょうか。(拍手)。ありがとうございます。先ほど控室でサインさせてもらいました。チーム関係者とも話し合っただけでプレーヤーとしてピッチに立てる云々は僕次第だし、これからどう鍛えていくか、どこまで自分を持っていけるかどうか勝負だと思っています。監督の考えもあるでしょうけれど、いろんな面でアスクラロ沼津に刺激を与えていければいいし、僕自身もアスクラロ沼津から刺激を受けたい。そして東部の皆さんに元気になってもらえればいいなと思っています。

—本当にその通りです。レギュラーとして先発メンバーとして名を連ねるには現実的にまだまだ大変なことがあるとは思いますが、これまでの気持ちを維持して来年度はピッチに、しかも先発で。

**中山** いやぁ先発じゃ使ってくれないでしょ。勝負が決まった後の3分でもいいですよ。それで僕、プロ契約ではなくアマチュア契約をさせてもらいました。働きながらの選手です。どこまで自分を高められるか分かりませんが、何とかピッチに立って皆さんの期待に少しでも応えられたらいいなと思っています。まだまだ道は険しいのかなという感じもありますが。

—それを乗り越えるのがゴンです。大いに期待しています。ゴンをはじめ48歳になろうとしている男がもう一度ピッチに立って周りに元気を与えようとしている。これは非常に大事なことで、一流のアスリートは社会的な存在です。昔でしたらカズやゴンはいつまで現役をやるのだろうかという興味の対象でしかなかった。今や社会的存在

となり、自分の言動や行動が社会にどう影響を与えるか、否応なく自覚せざるを得ない時代になっています。そういう意味ではこれからのゴンの姿勢、一挙手一投足を皆さんが注目しています。来季への抱負を含めて一言お願いします。

**中山** 来年どんな活躍ができるのか、どんな自分ができているのか分かりませんが、日々成長していければいいなと思っています。今日より明日、明日より明後日という形で、今年よりは来年の自分がより強い自分でありたいと常に思っていますし、それに合わせたトレーニングもしなければいけない。それを努力と周りには言ってくれるかもしれませんが、努力ではなく当たり前のことです。もしグラウンドに立つようなことがあれば、皆さん温かい声援と熱い情熱を僕に注いでいただけたらありがたいです。

### ＜ゲスト・プロフィール＞

■**なかやま まさし氏** 1967年9月23日生まれ。藤枝市(旧岡部町)出身。藤枝東高、筑波大を経て、1990年日本リーグのヤマハ発動機(現J2・ジュビロ磐田=J1復帰)に入団。J1歴代最多の157ゴールを記録し、98年最優秀選手、2度の得点王を獲得。日本代表では53試合で21得点、ワールドカップ(W杯)2大会に出場し、98年フランス大会ではジャマイカ戦で、日本選手として史上初得点を挙げた。2012年、ケガの影響から一線を退くことを発表したが、今年9月、47歳で現役に復帰。J3参入を目指す日本フットボールリーグ(JFL)のアスクラロ沼津に入団した。サッカー解説などの仕事を続けながら、アスクラロ沼津の練習に参加し、試合出場を目指している。



## ラジオマイトーク

【平成28年3月6日放送】

### 伊豆八十八カ所巡りを企画

むろ ふし つよし  
**室伏 強 氏**

三嶋観光バス(株)  
代表取締役

▽**モットー** 一隅を照らす  
▽**趣味** お寺巡り、街の散策  
▽**出身地** 三島市

#### ＜お話のポイント＞

◆平成10年の規制緩和で登録できるようになってバス3両から始めました。父親が旅行関係の仕事をしていたので自社関連の仕事が多かったです。団体から個人旅行に変わり、提案型旅行でお客様が知らないサプライズがないと難しいです。

♥10年前から伊豆八十八カ所巡りを行っています。12回に分けた日帰り旅行です。1回8カ所ぐらい回ります。伊豆の巡礼のポイントに観光、健康、信仰を訴えています。本堂に上げてもらい、お経を唱えます。ご住職さんが法話をしてくれたり、お接待ま

でしてくれます。

◆お寺には歴史が埋まっています。南伊豆町の妻良にある善福寺は勝海舟が時化で一週間滞在したところで、写真もあります。ハリスが江戸に行くことが許された時に湯ヶ島の弘道寺に宿を取っています。河津町の「ならんだの里」には平安前期の仏像があります。

◆観光客には行政区分は関係ありません。観光PRもひとつの町では魅力が中途半端になります。もっと連携すれば魅力も増します。



ラジオマイトーク

【平成28年5月8日放送】

## お客様の心に寄り添って

あさ み り つ こ

浅見 律子 氏

SMBC日興証券(株)  
沼津支店長

▽モットー 心穏やかに気持ちは強く  
▽趣味 ウォーキング、ゴルフ、寺社巡り  
▽出身地 埼玉県

### 〈お話のポイント〉

◆個人向けには資産形成・運用、相続コンサルティング業務、法人向けには事業継承、M&Aのアドバイザーなど多岐にわたっています。お客様の心に寄り添い、一番望むご提案、親身な相談に乗ることが使命です。

♥NISA(少額投資非課税制度)によって年間120万円まで株式や投資信託を購入すると、それに対する配当金や分配金に対する税金が20%通常掛かるところが非課税になる制度です。従来60歳以上がメインの客層でしたが、30、40歳代のお客様が増えました。

◆4月からジュニアNISAという未成年でも口座が開けるようになりました。祖父母が孫のために開設するケースが増えていきます。

♣60歳以上のお客様は蓄えてきたお金をスムーズに次世代に移転して残したいという気持ちが強いのです。相続、生前贈与について関心が高まっていますので、相続対策サービスにも力を入れています。沼津に赴任し1年2カ月、沼津は素晴らしいところです。老後も沼津に住みたいと思います。



ラジオマイトーク

【平成28年7月3日放送】

## 日本旅館と文人の観光ルートを

なか やま まさる

中山 勝 氏

一般財団法人企業経営研究所  
常務理事

▽モットー 急いではダメ!怠けたらもっとダメ!学べ、学び、もっと学べ!  
▽趣味 旅行、ドライブ、音楽鑑賞  
▽出身地 島田市(旧金谷町)

### 〈お話のポイント〉

◆1982年にスルガ銀行が設立母体になってできた組織です。自主研究などの調査研究、会員企業へのコンサルタント事業、セミナーや講演会活動、情報誌の発行、県内の先生や外国人先生に研究助成する国際交流事業の5つが柱です。会員は県内の中堅中小企業です。

♥2泊3日のセミナーは経営者、経営幹部の方々が対象で実際に経営の場で起こったものを題材にケーススタディで進めています。業種も異なりますのでいろいろな考えがでてきてお互いに刺激になるようです。

◆伊豆地域の活性化には観光産業の再興が必要です。伊豆市と河津町の1市1町で伊豆の日本旅館と文人墨客をテーマに新しい観光ルートを作り、文化庁の日本遺産の認定を目指します。7月28日に伊豆市で開催するサンフロント21懇話会の伊豆地区分科会がキックオフになります。

♣地域づくりは、行政でも、地域でも、企業でも自らしっかりしたミッションという役割を心に刻んでいるかがカギです。基本理念として地域、企業活動をするという強さが必要です。



ラジオマイトーク

【平成28年8月28日放送】

## 社員教育研修に力入れる

うえ まつ たか やす

植松 孝康 氏

植松グループ  
代表取締役社長

▽モットー 努力は裏切らない  
▽趣味 読書、ゴルフ  
▽出身地 沼津市

### 〈お話のポイント〉

◆植松グループは金属屋根材、外壁材の製造販売の「植松」と、それらの工事を行う「植松建興」の2社で構成しています。創業は昭和24年。昨年2月に社長に就任しました。現在33歳です。

♥金属の屋根材は軽くて地震に強く、しかもリサイクルできるという特徴があります。金属屋根材の住宅が増えることで、地震が起こった時に倒れない家が軒でも増えればとの思いでやっています。家は20年経つとリフォーム適齢期と言われる。当時の新築着工戸数は今の2倍以上あり、今後のリフォー

ム需要も考慮し、リフォーム事業を立ち上げました。  
◆社員の教育プログラムを実施しています。入社3年目までの若手研修、中堅研修、部長クラスのマネジャー研修の3つに分けて実施しています。どこの部署へ配属されても、通用する人材に育てる研修です。それに加え、課題図書プログラムという3カ月に1冊本を読み、感想文を提出する教育も行っています。  
♣若いから出来ることもあると思っていますので、その部分を活かしながら、さらに若い人を存分に育て、「人(社員)が良い会社」と言われるようにしたい。

**■新たに入会された方**

- ◇静岡県観光交流局  
伊豆観光局長 望月 宏明
- ◇(株)ホテルグランド富士  
代表取締役社長 小林 一哉
- ◇山本豊一会計事務所  
所長 山本 豊一
- ◇(株)伊藤園  
静岡地区営業部長 山本 司
- ◇(株)オートベル  
代表取締役 大内 秀夫
- ◇子育て支援ネットワーク「スイートピー」  
代表 花堂 晴美

**■会員の変更**

- ◇アフラック沼津支社  
支社長 鈴木 達也 →  
支社長 大塚 充子
- ◇東海金属工業(株)  
代表取締役会長 関本 文彦 →  
代表取締役社長 関本 芳英
- ◇静岡県熱海財務事務所  
所長 高木 宏通 →  
所長 後藤 睦
- ◇静岡県熱海土木事務所  
所長 森田 尚孝 →  
所長 植松 静夫
- ◇静岡県田子の浦港管理事務所  
所長 桜井 孝洋 →  
所長 梅原 正
- ◇静岡県東部危機管理局  
局長 佐藤 一彦 →  
局長 石川 昌孝
- ◇静岡県東部地域政策局  
局長 滝浪 勇 →  
局長 広岡 健一
- ◇静岡県東部農林事務所  
所長 白井 満 →  
所長 岡 あつし
- ◇静岡県工業技術研究所  
沼津工業技術支援センター  
センター長 神谷 義之 →  
センター長 加藤 公彦
- ◇静岡県沼津財務事務所  
所長 中西 芳弘 →  
所長 片野 光男
- ◇静岡県沼津土木事務所  
所長 石塚 基一郎 →  
所長 森田 尚孝

- ◇静岡県工業技術研究所  
富士工業技術支援センター  
センター長 神谷 真好 →  
センター長 佐藤 廣美
- ◇静岡県富士健康福祉センター  
所長 吉野 豪一 →  
所長 酒井 仁志
- ◇静岡県富士財務事務所  
所長 田代 恵子 →  
所長 鈴木 敬志
- ◇静岡県富士農林事務所  
所長 竹林 圭介 →  
所長 田島 章次
- ◇スルガ銀行(株)  
執行役員本店長 平井 克弘 →  
執行役員本店長 高山 英雄
- ◇損害保険ジャパン日本興亜(株)東部法人支社  
支社長 宮尾 賢一 →  
支社長 藤山 茂
- ◇日本電気(株)沼津支店  
支店長 小笠原 久幸 →  
支店長 村田 武志
- ◇沼津リバーサイドホテル  
顧問 齋藤 研一 →  
取締役総支配人 山下 顕広
- ◇富士通(株)静岡東部支店  
支店長 吉田 徹 →  
支店長 園田 修治
- ◇米久(株)  
代表取締役社長 宮下 功 →  
代表取締役社長 御園生 一彦
- ◇スルガコンピューターサービス(株)  
代表取締役 佐野 雄一郎 →  
代表取締役 田代 豊
- ◇特種東海製紙(株)  
代表取締役社長 三澤 清利 →  
執行役員特殊素材カンパニーCEO 大沼 裕之
- ◇(株)関電工静岡支社  
執行役員静岡支社長 都瑠 浩司 →  
静岡支社長 亀山 昌美
- ◇西日本電信電話(株)沼津営業支店  
支店長 立岩 紀尚 →  
営業支店長 大槻 善勇
- ◇日本製紙(株)富士工場  
執行役員富士工場長 音羽 徹 →  
富士工場長 中村 真一郎
- ◇静岡県下田市  
市長 楠山 俊介 →  
市長 福井 祐輔